

台風 19 号の被災地におけるボランティア活動について

10月27日(日)に、台風19号で被害を受けた大崎市鹿島台にボランティアに行ってきました。参加したのは、サッカー部員20名、生徒会執行部2名、男子バレーボール部員1名、計23名の有志です。

バスで学校を出発し、まずは災害ボランティアセンターのある「鎌田記念ホール」に行き、受付とマッチング(作業内容の割り振り)をしました。それから吉田川の越水による浸水被害があった川前地区に移動して、災害ゴミの運び出しや敷地に流入した稲わらの片付けなどを手伝いました。



初めて災害ボランティアに参加した生徒ばかりでしたが、被害に遭われた方と一緒に荷物の運び出しなどに汗を流しました。活動終了後に「高校生に手伝ってもらって、片付けが進んだ。ありがとう」とお礼の言葉をいただきました。私たちがお手伝いできたのは、3時間程度です。少しは力になれたと思いますが、被害に遭われた方たちが日常を取り戻すまでにはまだまだ時間と労力が必要だと感じました。



《生徒感想》

生徒会執行部 普通科 2年 岩佐 唯花（多賀城中学校出身）

今回のボランティアを通じて、私は台風も地震と同じように関心を持たなければならないと思いました。ボランティアをさせていただいたお宅に入ったとき、私は8年前の自宅の様子とほぼ同じ状態であることに驚きました。まるで津波が来た後のような被害だったので、自分の台風に対する考え方が変わりました。私たちはどこか台風に対して甘く見ているように思います。これから温暖化が進むにつれて今回のような台風が当たり前になってくると思うので、台風への考え方を見直すべきだと思います。

サッカー部 普通科 1年 佐藤 輝（松島中学校出身）

自分の想像以上に被災地は大変そうでした。ボランティアを体験して改めて災害の怖さを実感することができました。ボランティアの他にも被災地の人のために力になれることはあると思うので、できることがあれば何でもしていきたいです。

サッカー部 普通科 1年 高木 亮成（宮城野中学校出身）

実際に被災地に行ってボランティアをしたのは初めての経験でした。被災された方々は、はつらつとはしていませんでしたが、前に進もうという活力はあったと感じました。これからも様々な活動で困っている人の力になればと思います。

サッカー部 普通科 1年 鈴木 美羽（多賀城第二中学校出身）

私は今回初めてのボランティア活動でした。最初は自分にできることがあるのかと不安でしたが、伺ったお宅の方がとても笑顔で接してくださったので安心して活動することができました。終わった後も笑顔で「ありがとう」と言ってくださり、活動に参加してよかったと思いました。また、被災されて悲しい気持ちのはずなのに、私たちに笑顔で接してくださってありがたかったし、すごいなと思いました。ボランティアをしに行った私が元気づけられました。私はこの活動を通して、いつも笑顔でいることを心掛けようと思いました。また、このような活動にまた参加し、被災された方の役に立ちたいと思いました。

サッカー部 普通科 1年 石井 怜和（岩切中学校出身）

私は人生で初めてボランティア活動をしました。活動場所に着くと、予想よりも被害が大きくて驚きました。家に水が上がってきた跡が残っていて、被害の大きさが伝わってきました。作業はとてもハードでした。とてもじゃないけど、家族だけで家を元に戻すのは無理だと思いました。ボランティアの重要性を、身をもって確認できたよい機会でした。



サッカー部 普通科 2年 半澤 結花（幸町中学校出身）

台風19号の被害状況はテレビなどのメディアでしか分かりませんでした。実際に行ってみて想像以上に被害が大きかったこと、ボランティアの手が足りていなくて約2週間たった今現在も片付けが進んでいないことが分かりました。短時間しか活動できませんでしたが、手伝った家の方が喜んでくださったのでやってよかったと思いました。実際に現場に行ってみないと分からないことがたくさんあるので、これから起こる災害でもボランティア活動が活発に行われるといいです。

男子バレーボール部 普通科 1年 音喜多 彬（五橋中学校出身）

私は今回初めてボランティアに参加しました。被災者の気持ちを考えながら作業していると心が苦しくなりました。自分には、ボランティア活動が終わったあと帰る家がありますが、今回被災した方の中には、家を失った人もいます。被災によって、当たり前なのが当たり前でなくなり、大変な思いをしたのだらうと思いました。私は、この活動を通して、被災した人の気持ちを少し理解することができました。これからもボランティア活動に積極的に参加したいです。

サッカー部 普通科 1年 久光 優輝（鹿島台中学校出身）

初めて被災地におけるボランティア活動に参加してみて、想像以上に被災家屋の状況がひどくて驚きました。タイヤや畳なども散乱していて、片付けるのは大変でした。私たちだけでなく、たくさんの人がボランティア活動に参加していることにも驚きました。また、災害の起こった現場では、ボランティア活動によって被災者を支えていることを知ることができました。少しでも被災者の力になることができよかったです。

サッカー部 普通科 1年 古川 颯大（岩切中学校出身）

私の住んでいる地域では大規模な被害はありませんでした。また、テレビなどで他の地域の大きな被害を目にしても、どこか他人事でした。しかし、今回の活動に参加することで、被害を目の当たりにし、自分が普通に生活しているときに普通の生活ができていない人がいることを再認識できました。これからも少しでも何か手伝えたらいいと思います。

サッカー部 普通科 1年 市川 詩織（中野中学校出身）

同じ宮城県でも、私の周りとの状況の違いに驚きました。今回、ボランティア活動に参加させていただき、改めて自然災害は怖いと感じました。ずっと同じような作業をしていたので、大変でしたが、「ありがとう」「すごく丁寧だね」「助かったよ」と言ってもらい、頑張っよかったです。力になれたと思うと嬉しい気持ちになれました。今後も参加できるボランティア活動があれば積極的に参加したいです。

サッカー部 普通科 1年 遠藤 瑛斗（多賀城第二中学校出身）

自分の地域では大きな被害がなく、あったとしてもすぐに回復して普段通りの生活ができるようになっていますが、まだ普段通りの生活ができていない地域があることがボランティア活動を通して分かりました。今後は、普段の生活ができることを当たり前と思わず、時間があればボランティアに参加したいです。被災者を勇気づけたり、元気にしたりすることもボランティアの大切な役割だと思いました。

サッカー部 普通科 1年 飯村 壮尊（高砂中学校出身）

私が伺ったお宅は、外から見るとそこまで被害がないように見えても敷地内に入ると水で使えなくなってしまった家具やドアがあって本当に大変だったのだと知ることができました。ボランティア活動に参加しなければこの大変さは絶対知ることができなかつたので、経験できてよかつたと思います。また、次の機会があれば、もう一度参加したいと思います。

生徒会副会長 普通科 1年 本間 優輔（田子中学校出身）

今回のボランティア活動を通して、この活動の大切さを学ぶことができました。私たちのチームは、家具や材木を運ぶ作業を手伝いました。どの荷物も水を吸っていて大変重かつたです。1日でこれだけの疲労がたまってしまうのに災害の当事者の方は大変な思いをしていると考えました。当事者の方の負担を少しでも軽くするために、これからも積極的にボランティア活動に取り組んでいきたいです。また、自分の地域でもいざというときにご近所さんと協力できる関係をつくっていきたいです。

サッカー部 普通科 1年 中川 李空（多賀城第二中学校出身）

ボランティアをたった5時間だけでもするだけで被災した人から笑顔を見ることができて逆に自分が笑顔になりました。人のためにすることは自分のためでもあると思いました。たくさんの人がボランティアに参加すればたくさんの人が助かると思いました。

サッカー部 普通科 2年 松浦 翼（東豊中学校出身）

今回行った鹿島台はとても被害を受けていて、とても大変になっていて、台風19号のすごさを感じることができました。私は家の家具などを外に出す作業をしました。重いものが多く、運ぶのは大変でしたが、皆と力を合わせ家のものを全部外に出したときは達成感を感じました。

今回学んだことは、災害ボランティアにはたくさんの人が参加しており、ボランティアをする人もとてもいい気持ちになれることに気付きました。今後もこのようなボランティアに積極的に参加していきたいです。

サッカー部 普通科 2年 千葉 響（多賀城第二中学校出身）

実際に被災した場所に行って、台風19号の被害の大きさを改めて感じました。私は稲わらの処理をしました。稲わらだけでもたくさんあって、ゴミなども落ちていてなるべくきれいにできるように活動しました。今回ボランティア活動をして、自分が当たり前で過ごしている環境を当たり前だと思ってしまうはいけないと思いました。またボランティアに参加できるときは参加したいと思います。